

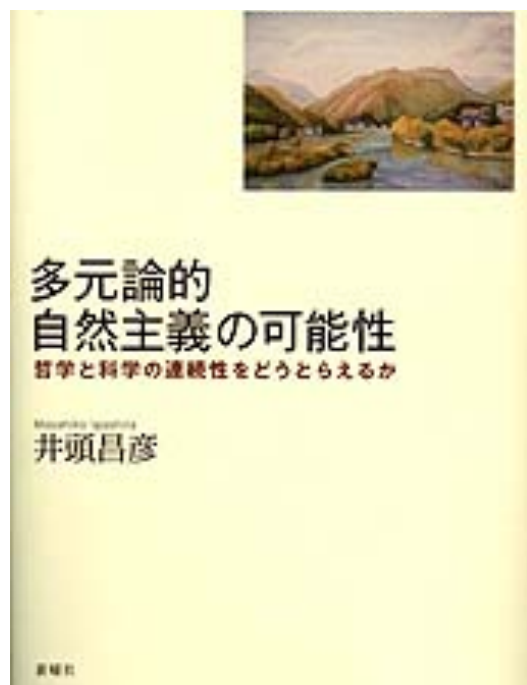
多元論的自然主義は 怠惰な形而上学なのか？

Pluralistic Naturalism; Ontology for Slackers ?

一橋大学 大学院 社会学研究科
井頭 昌彦

基本的な立場の概要

【本書の基本的な立場】



井頭昌彦 著
『多元論的自然主義の可能性』
(新曜社、2010)

➤ 哲学的自然主義を支持

- 第一哲学の拒否
- 体系内在主義の採用

最小限の
自然主義

➤ 物理主義的一元論を拒否し、 多元論を採用

- 物理学の概念図式を特権視しない。
- 物理学への着陸を要求しない。
(type同一性, token同一性, SV, 等)

何を「拒否」しているのか？

「多元論的自然主義」が拒否しているもの：

第一哲学

物理主義的一元論

より確実な哲学が科学に先行し
諸科学の妥当性や有意味性を
基礎づける、という自己理解。

世界は物理的事実に尽きる。
物理的事実に帰着しない記述は
世界の記述ではない。

これらを拒否するとはどういうことか？

「哲学の仕事」はどうなるのか？

「第一哲学」の役割

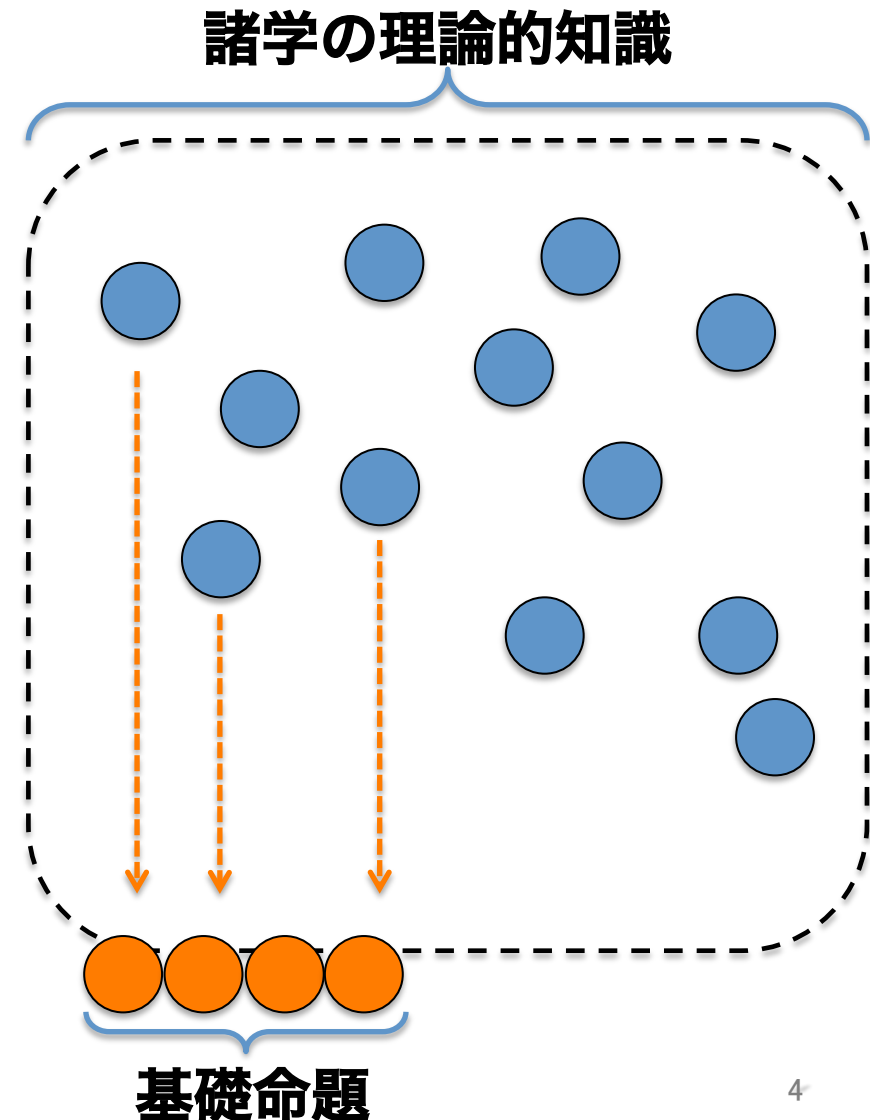
- 諸科学に先行
- 基礎領域の確立



諸学の基礎づけ

例：経験的基礎づけ主義

- 諸科学の知見を前提とせず、
- 不可謬な基礎命題を特定し、
- 基礎命題との関係によって、諸科学の妥当性や意味を基礎づける。



「第一哲学」の役割

- 諸科学に先行
- 基礎領域の確立



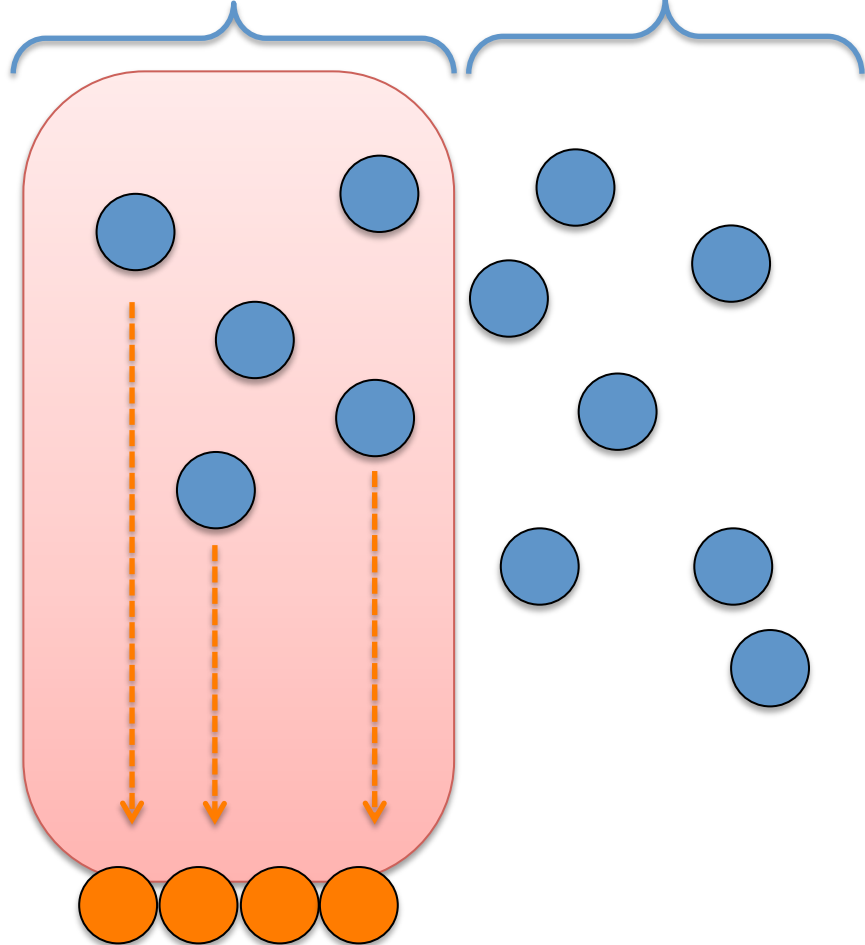
諸学の基礎づけ

例：経験的基礎づけ主義

- 諸科学の知見を前提とせず、
- 不可謬な基礎命題を特定し、
- 基礎命題との関係によって、諸科学の妥当性や意味を基礎づける。

真正な科学的知識

疑似科学



「第一哲学」の役割

- 諸科学に先行
- 基礎領域の確立



諸学の基礎づけ

例：経験的基礎づけ主義

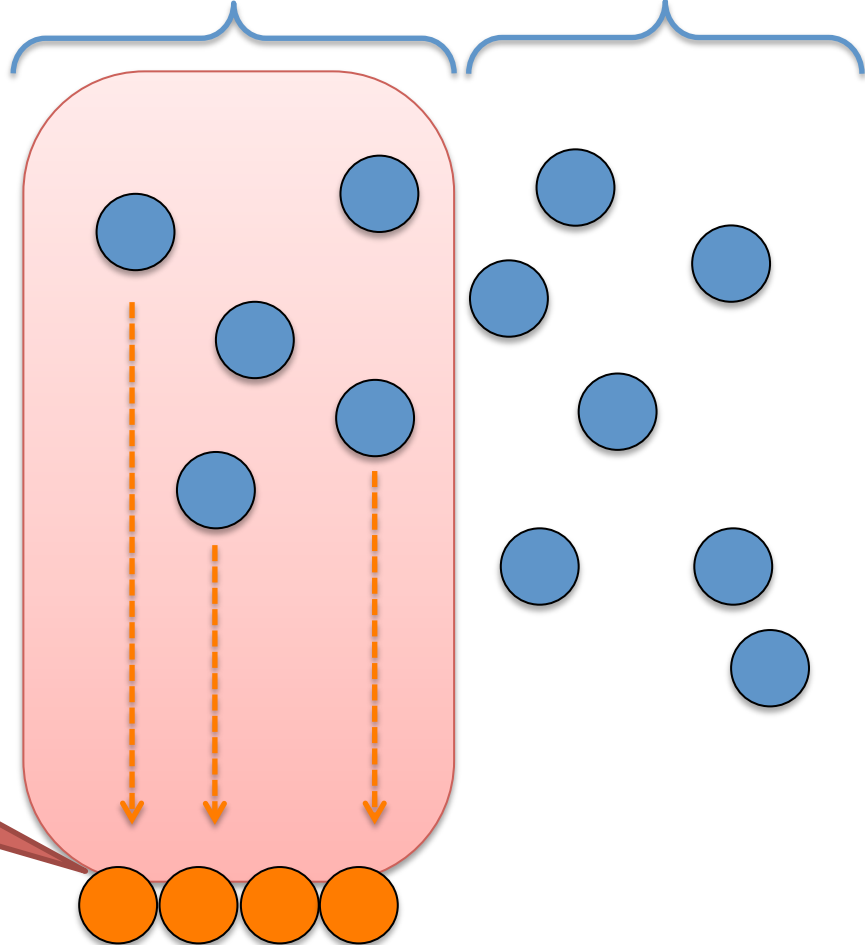
- 諸科学の知見を前提とせず、

諸科学に先行して
哲学が基礎領域を確立し、

基礎づける。

真正な科学的知識

疑似科学



「第一哲学」の役割

- 諸科学に先行
- 基礎領域の確立



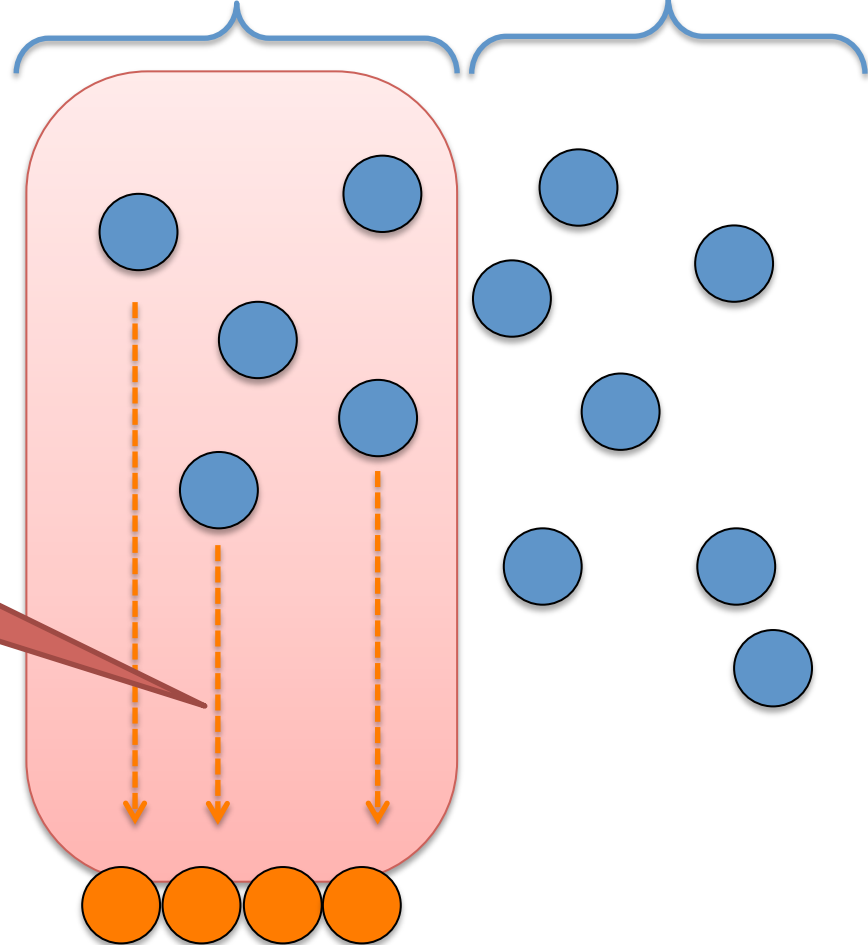
諸学の基礎づけ

基礎領域との関係で
諸学の妥当性や意味を
基礎づける

- 基礎命題との関係によって、
諸科学の妥当性や意味を
基礎づける。

真正な科学的知識

疑似科学

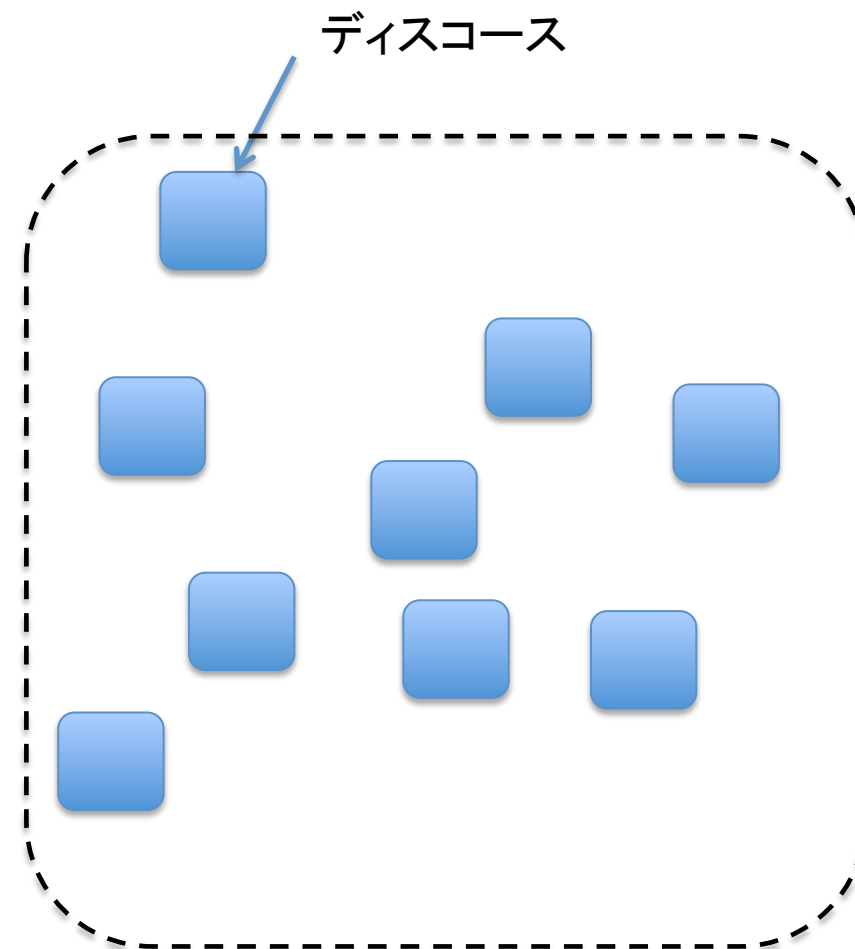


「物理主義的一元論」の役割

- 物理学の特権化
- 実在性基準の設定

物理主義的一元論：

- 世界は物理的事実に尽きる。
- 物理的事実に帰着しない記述は世界の記述ではない。



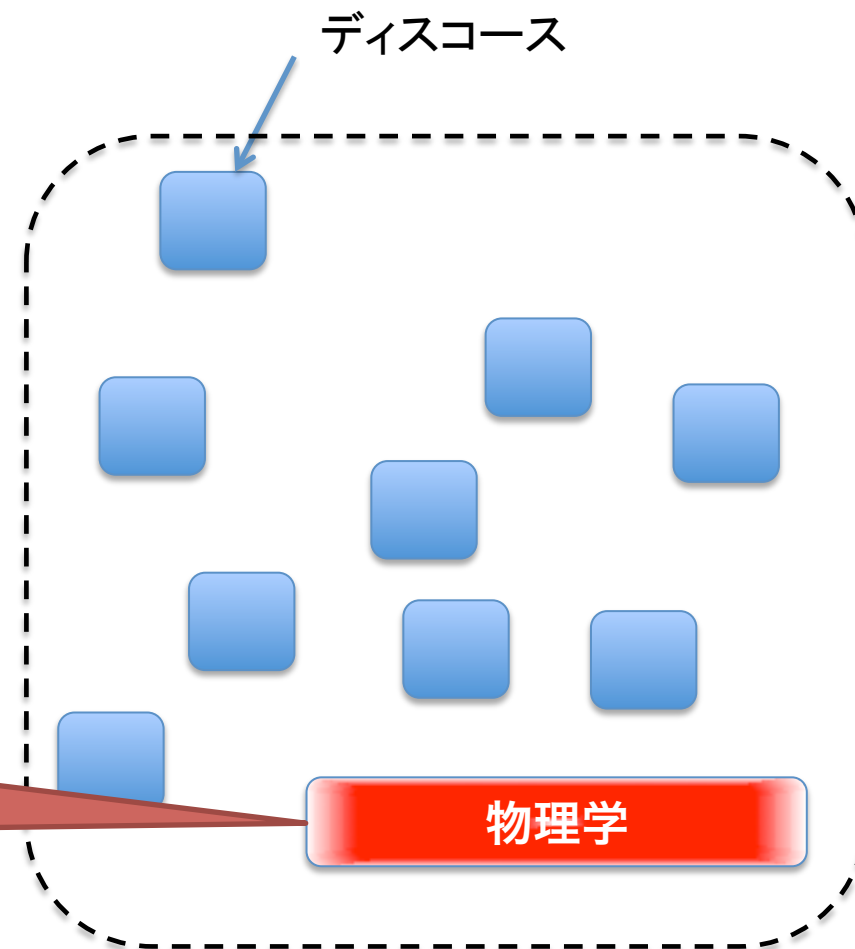
「物理主義的一元論」の役割

- **物理学の特権化**
- **実在性基準の設定**

物理主義的一元論：

- 世界は物理的事実に尽きる。
- 物理的事実に帰着しない記述は世界の記述ではない。

諸ディスコースの中から
「物理学」を特権化



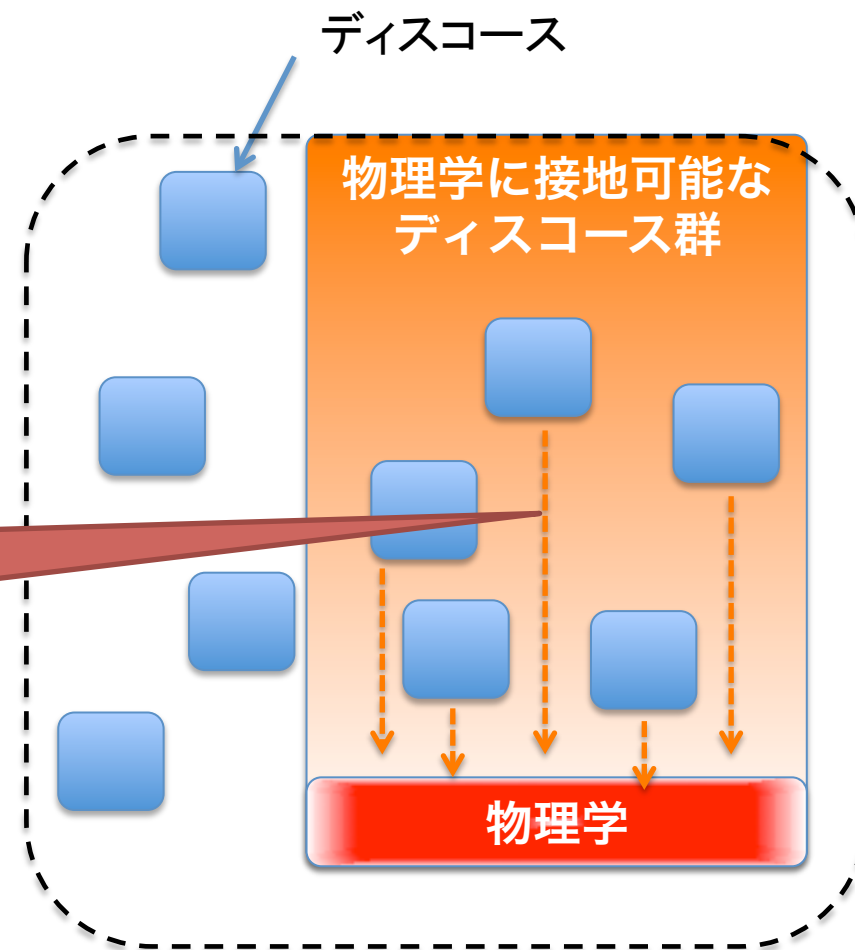
「物理主義的一元論」の役割

- 物理学の特権化
- 実在性基準の設定

物理主義的一元論：

- 世界は物理的事実に尽きる。

物理学に接地できる
ディスコースを選別
(via 同一性やSV関係)



「物理主義的一元論」の役割

- 物理学の特権化
- 実在性基準の設定

物理主義的一元論：

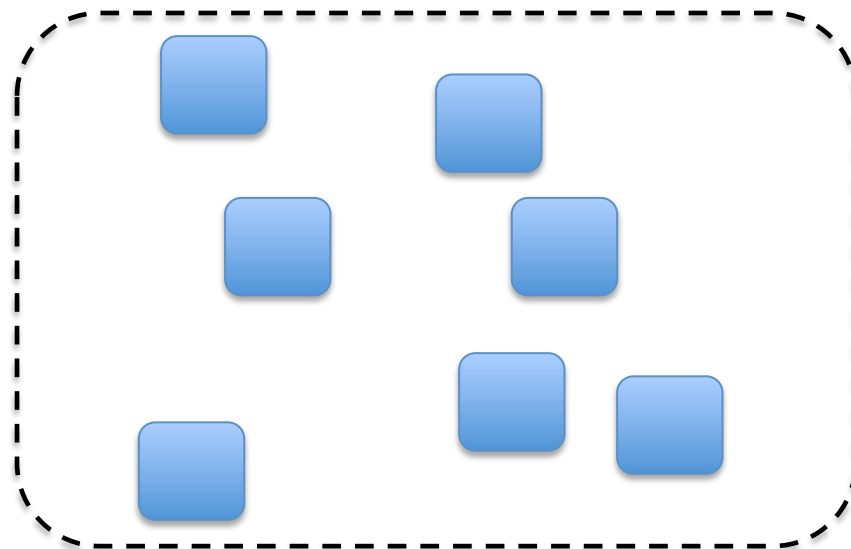
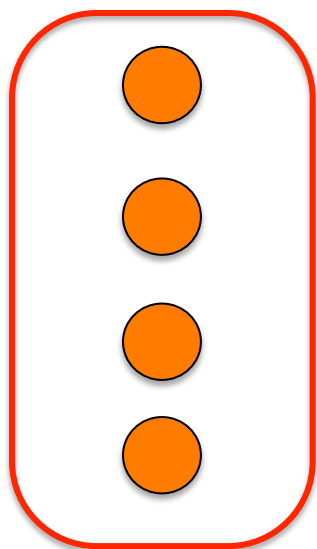
- 世界は物理的事実に尽きる。
- 物理的事実に帰着しない記述は世界の記述ではない。

heuristicな有用性
二流の科学

実在の記述



認識の流れで見ると…



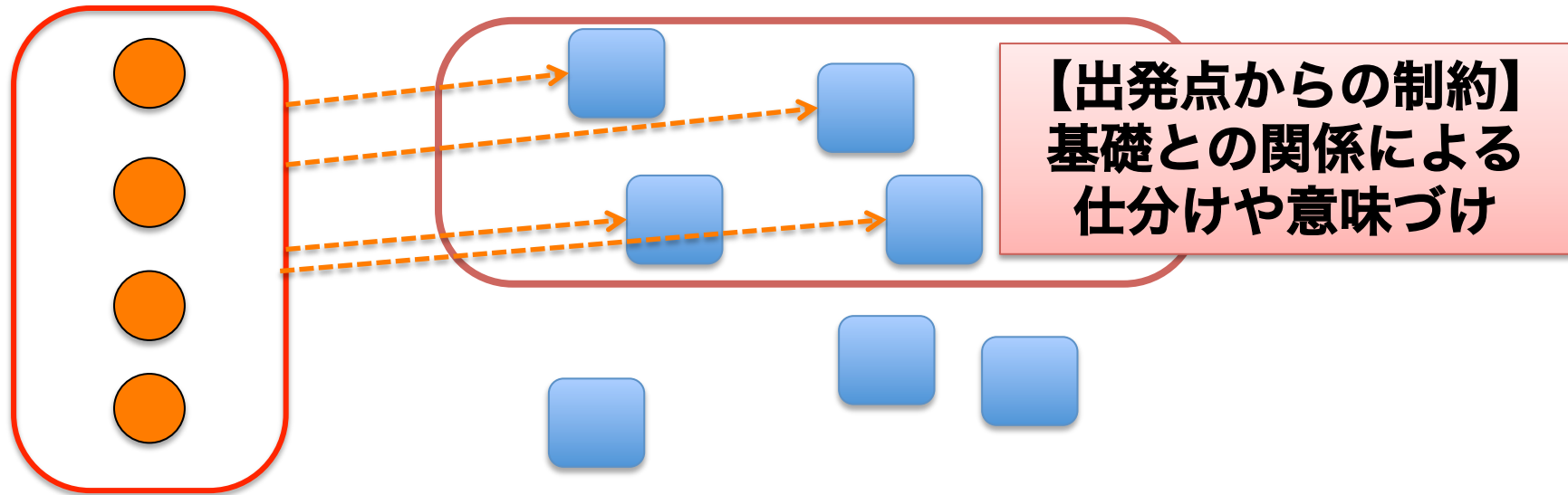
認識基礎・出発点

- プロトコル命題
- コギト命題
- 知覚命題、等

構築されたディスコース

実在の記述

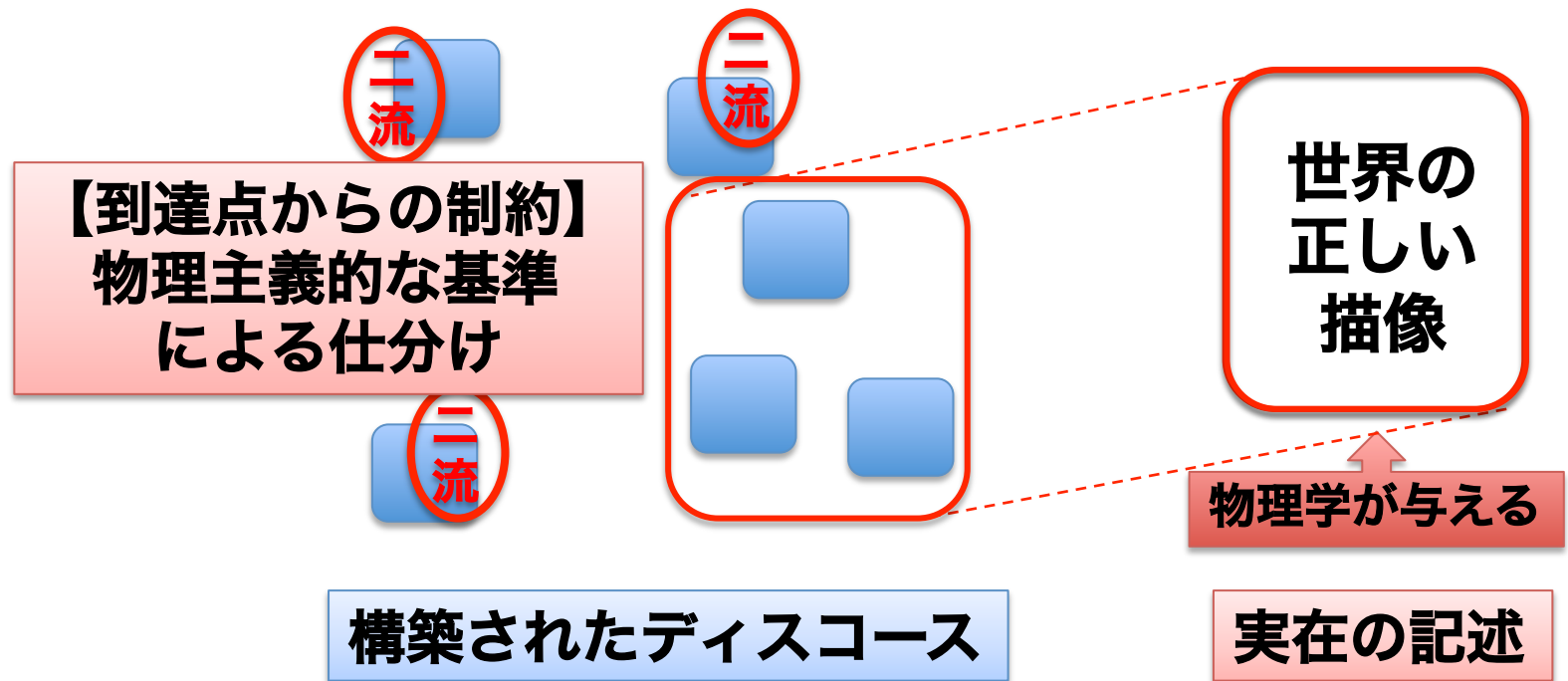
「第一哲学」の仕事



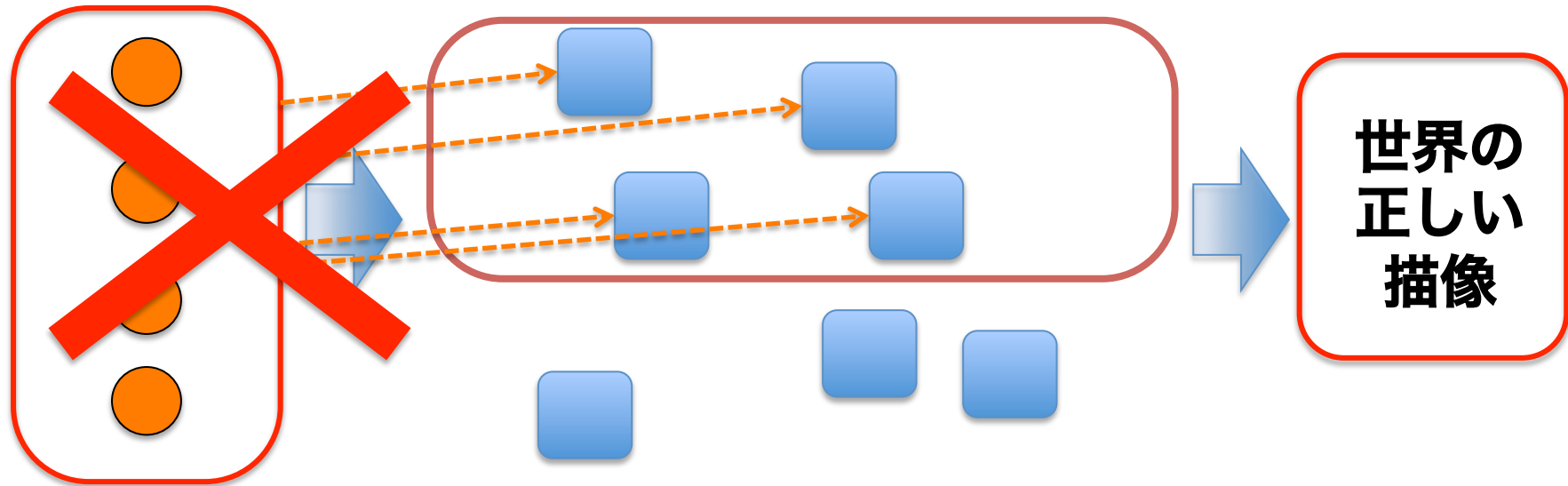
認識基礎・出発点

構築されたディスコース

「物理主義的一元論」の仕事



「多元論的自然主義」は…



認識基礎・出発点

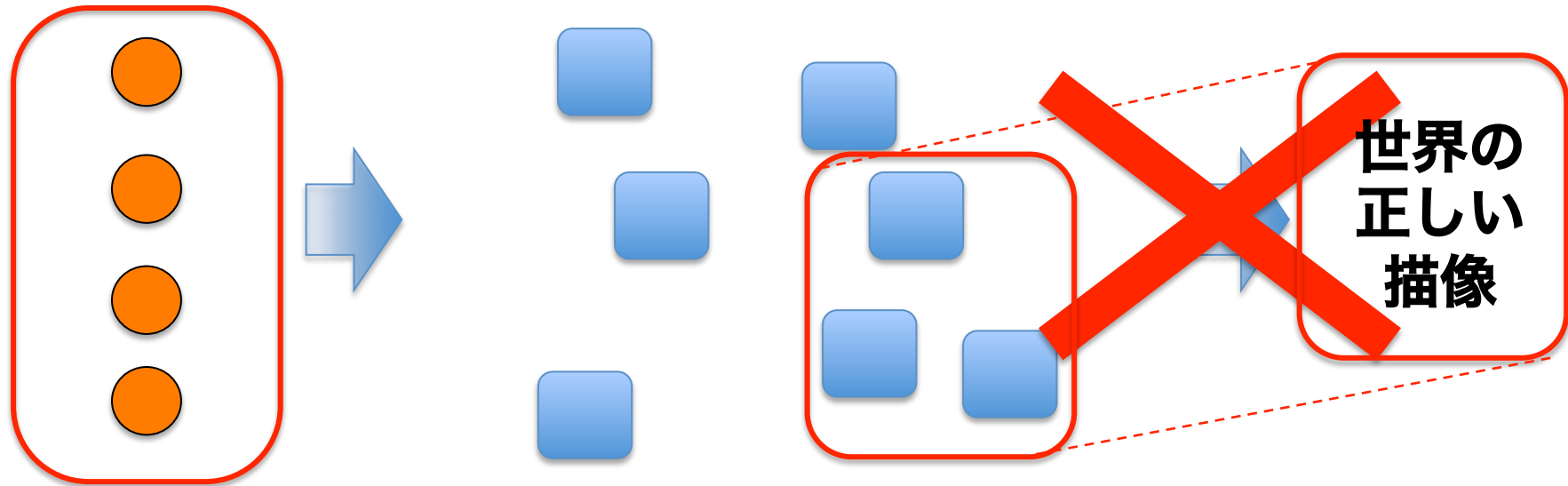
構築されたディスコース

実在の記述

多元論的自然主義は、出発点でも到達点でも制約をかけない。

(1) 「第一哲学的な基礎づけ」という**出発点の縛り**を拒否。

「多元論的自然主義」は…



認識基礎・出発点

構築されたディスコース

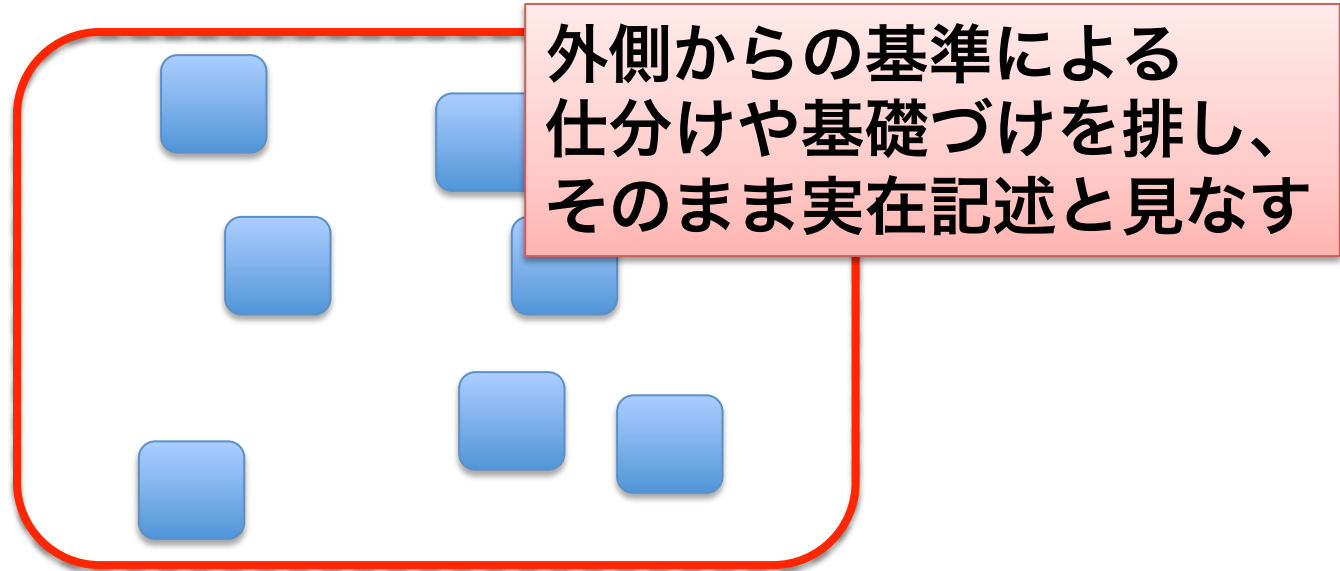
実在の記述

多元論的自然主義は、出発点でも到達点でも制約をかけない。

- (1) 「第一哲学的な基礎づけ」という**出発点の縛り**を拒否。
- (2) 「物理主義的な実在性基準」という**到達点の縛り**も拒否。

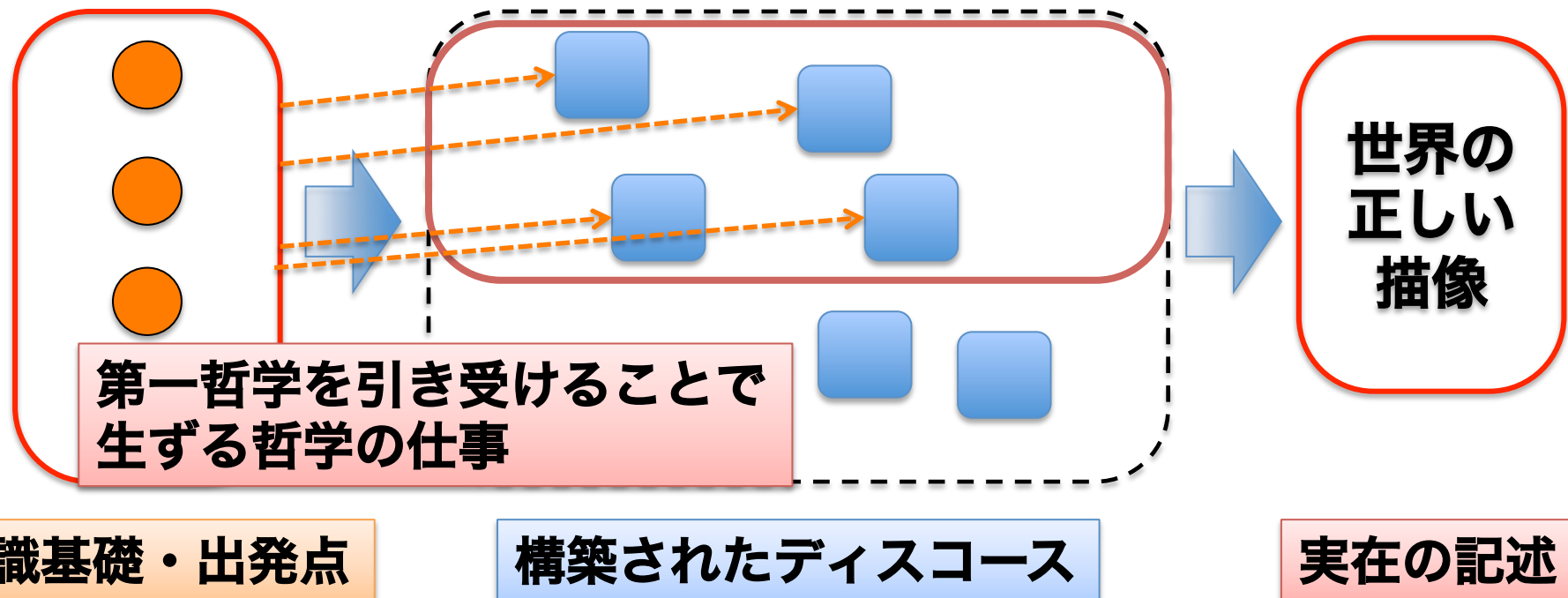
「多元論的自然主義」は…

第一哲学や物理主義は
ディスコース外在的な
仕分け基準としても
機能していた。



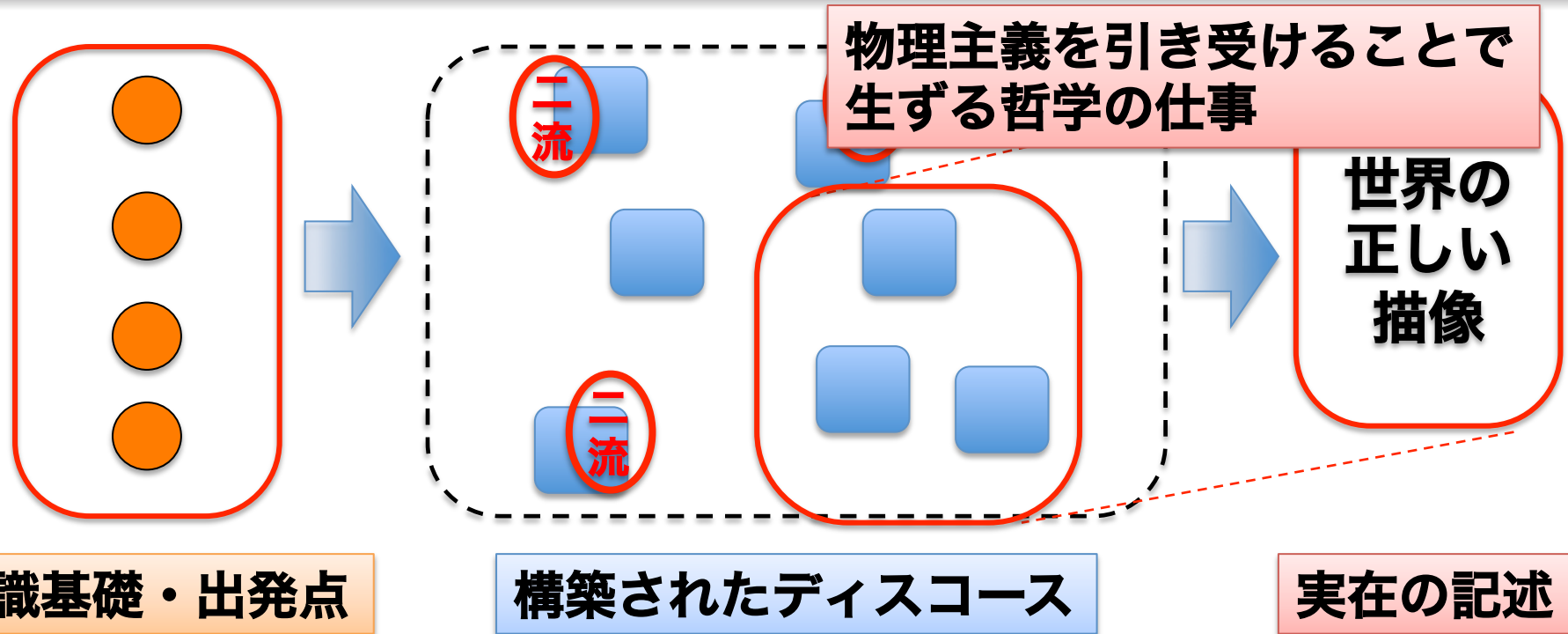
構築されたディスコース

従来の哲学の仕事放棄＝怠惰？



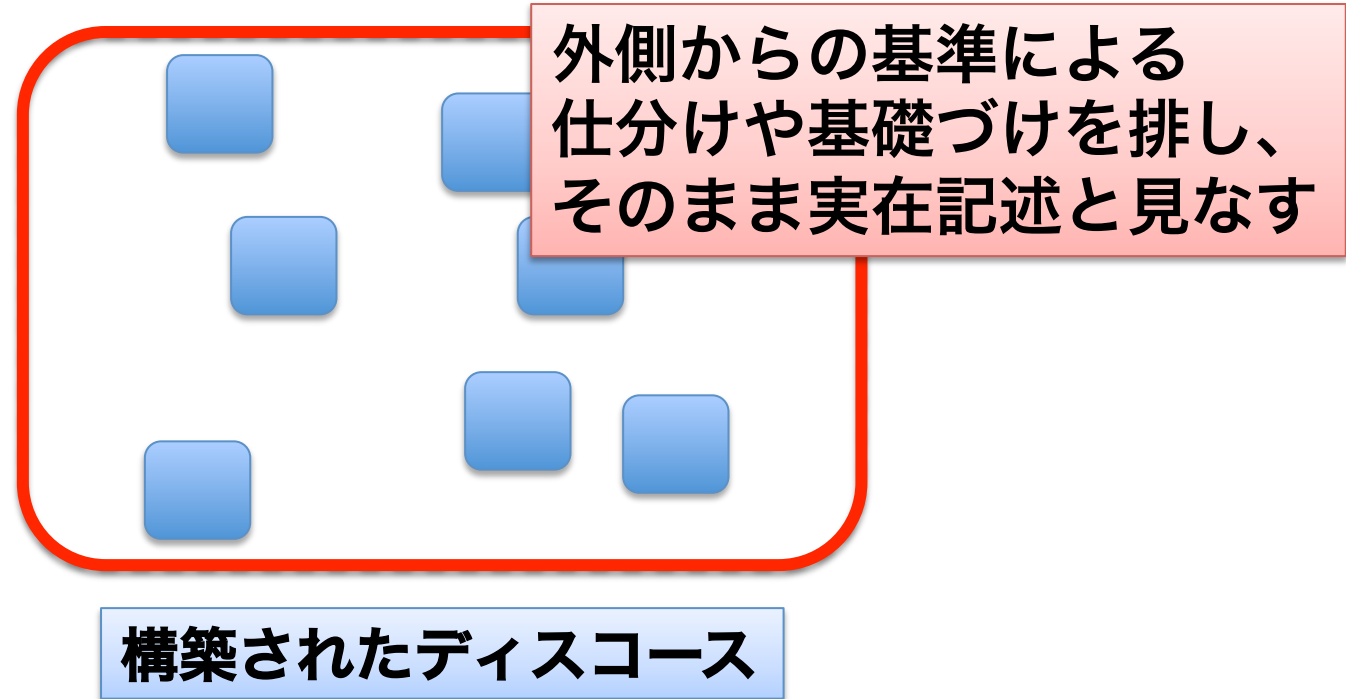
- 諸科学を基礎言明から構築してみせる作業（＝合理的再構成）
- 世界との接点を確保するための出発点分析（知覚の概念説？）
- 諸学の主張の正しさの意味を基礎領域に引きこもって分析

従来の哲学の仕事を放棄＝怠惰？



- 諸科学を基礎言明から構築してみせる作業（＝合理的再構成）
- 世界との接点を確保するための出発点分析（知覚の概念説？）
- 諸学の主張の正しさの意味を基礎領域に引きこもって分析
- 「着地可能性の判定」や「着地方法の開発」（所謂「自然化」）

従来の哲学の仕事を放棄＝怠惰？

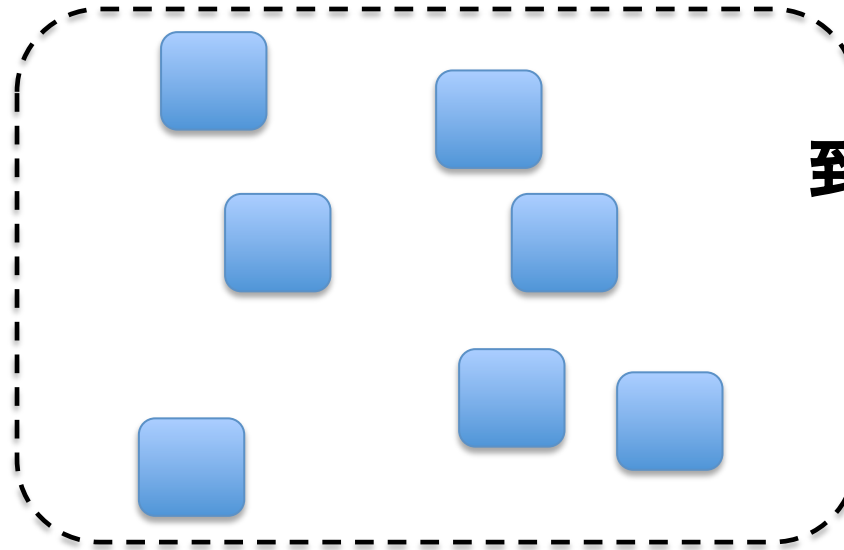


多元論的自然主義をとると、
様々な哲学的課題が「やらなくて良い仕事」になる。

- ⇒ 困難な課題を回避するだけの「怠惰な形而上学」なのでは？
- ⇒ 他にどんな仕事が残されているのか？

例1 : Concept Dynamics

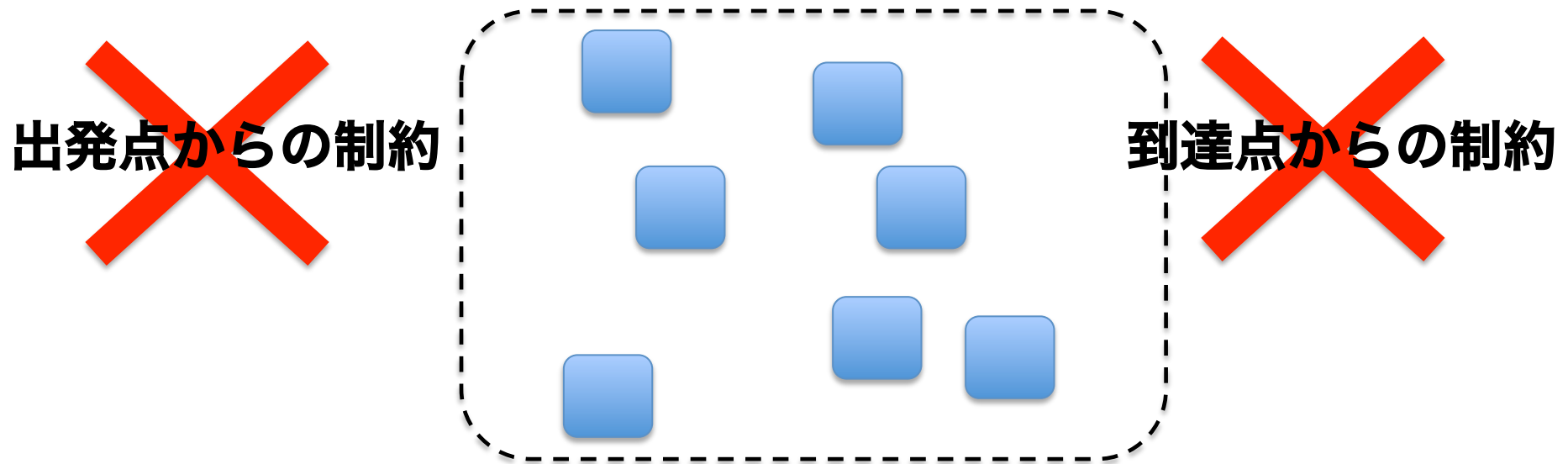
出発点からの制約



到達点からの制約

諸科学を含めた様々な概念活動が存在し、
個々の目的への有用性以外に特に制約もない形で
それぞれが併存している、という状況

例1 : Concept Dynamics



諸科学を含めた様々な概念活動が存在し、
個々の目的への有用性以外に特に制約もない形で
それぞれが併存している、という状況

→ 概念活動に課せられる制約は？ (デイヴィドソン、丹治)
創出・発達・消去・吸収合併・統合の仕組みは？
概念枠組みの生き残りメカニズムは？

例1 : Concept Dynamics

出発点からの制約

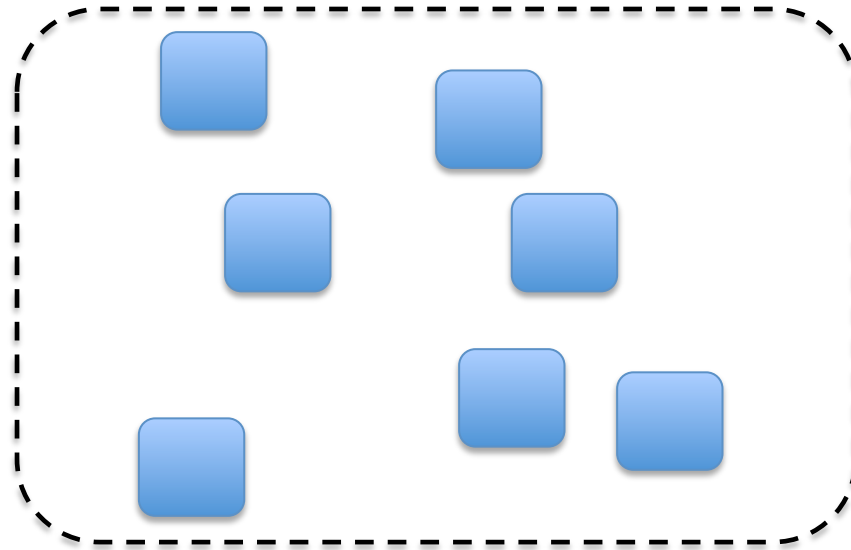
到達点からの制約

「基礎づけ」や「答え合わせ」でない、
概念発達や概念連関といったダイナミクスに
ついての研究

諸科学を含めた様々な概念活動が存在し、
個々の目的への有用性以外に特に制約もない形で
それぞれが併存している、という状況

概念活動に課せられる制約は？ (デイヴィドソン、丹治)
創出・発達・消去・吸収合併・統合の仕組みは？
概念枠組みの生き残りメカニズムは？

例2：Concept Engineering



概念活動に課せられる制約は？ (デイヴィドソン、丹治)
創出・発達・消去・吸収合併・統合の仕組みは？
概念枠組みの生き残りメカニズムは？

ある概念を作り替える／新たな概念を定着させるには、
どういう環境を整え、ネットワークをどう整備し、
どういう仕方で (localな) 社会に働きかければよいか。

例2 : Concept Engineering

概念ダイナミクスについての理解を下敷きに、
概念変化を能動的に引き起こす（フィードバック込み）

例：心を持ったロボット作るには？ / 認めてもらうには？

⇒哲学的に興味深い & 他分野の学術的発展のサポートも

概念活動に課せられる制約は？（デイヴィドソン、丹治）
創出・発達・消去・吸収合併・統合の仕組みは？
概念枠組みの生き残りメカニズムは？

ある概念を作り替える / 新たな概念を定着させるには、
どういう環境を整え、ネットワークをどう整備し、
どういう仕方で（localな）社会に働きかければよいか。

まとめ：Concept Studies

概念の科学 Concept Dynamics

- 概念が発達・定着・変容・合併するメカニズム（科史科哲）。
- 概念実践の記述（社会学）、概念発達史（発達心理学）を参照。
- ミームとしての概念枠組みの進化論的記述（社会文化進化）？

概念工学 Concept Engineering

- 概念サイエンスの知見を援用する。
- 概念発達を円滑化する／新概念の創出・定着を容易にする。
- 実際に概念変化を試みて、概念サイエンスにフィードバック。

まとめ：Concept Studies

概念の科学
Concept Dynamics

「概念を携えて世界にのぞむ者としての我々」
に関する包括的理解

- 我々は何をしているのか？
- 我々に何ができるのか？

- 概念サイエンスの知見を援用する。
- 概念発達を円滑化する / 新概念の創出・定着を容易にする。
- 実際に概念変化を試みて、概念サイエンスにフィードバック。

おわりに

- 我々は、制限されたリソースから出発するのではなく、すでに存在する概念活動から出発する。
- 「妥当性評価」や「理解可能性の裏づけ」という課題は、「何かより基礎的なもの」や「あらかじめ概要が与えられた世界像への合致」に訴えることなく処理する。



この舞台設定のもとでは、典型的な哲学的問題、例えば、「科学的世界観と常識的世界観をいかに折り合わせるか」「自由意志と決定論の問題」といった問題も、その見え方が少し変わってくる。



Thank you !